

## 第4回 前回の演習問題の解答と新たな課題

前回の演習問題の解答例を説明し、新たな課題を提示します。新たな課題が出来上がったら、これまで同様PDF形式で提出してください。

学科名 情報ネットワーク工学科  
海里

学籍番号 204101

氏名 相本

復習

比較するための演算子には、上記の  $>$  (大きい) の他に、 $<$  (小さい)、 $>=$  (以上)、 $<=$  (以下)、 $==$  (等しい)、 $!=$  (等しくない) があります。

主な演算子をまとめると以下の通りです。

算術演算子	+	足し算
	-	引き算
	*	かける
	/	割る (小数)
	//	割る (整数)
	%	余り
	**	べき乗
比較演算子	<	小さい
	>	大きい
	<=	以上
	>=	以下
	==	等しい
	!=	等しくない
論理演算子	and	両者を満たす
	or	どちらか片方を満たす
	not	満たさない

前回の練習8 (解答例) 整数nが2で割り切れたら偶数と割り切れなかったら奇数と表示しましょう。

In [2]:



```
n=int(input())
if n%2==0:
    print(n,"は偶数")
else:
    print(n,"は奇数")
```

```
2
2 は偶数
```

**課題 1 (練習 8 を参考に) 整数nが3の倍数であるか、そうでないかを表示しましょう。**

In [4]:



```
n=int(input())
if n%3==0:
    print(n,"は3の倍数")
else:
    print(n,"は3の倍数ではない")
```

```
5
5 は3の倍数ではない
```

以下は、rangeを使ったループの例です。  
rangeは、0から(指定した値-1)までの範囲を指定します。

In [5]:



```
for a in range(0,5,1): # rangeを使ったループ 0から4までの範囲
    print(a)
```

```
0
1
2
3
4
```

**課題2 : rangeを使って5,4,3,2,1,"発射"とカウントダウンしてください。ただし、発射はそのまま文字列で出力すればいいですよ。**

In [10]:



```
for a in range(5, 0, -1):  
    print(a)  
print("発射")
```

```
5  
4  
3  
2  
1  
発射
```

## 関数

関数を用いることで、複数行の処理をひとまとめにすることができます。  
関数は `def` と書いて、その後に関数名を記述します。

関数は、**引数**と呼ばれる値を関数の外部から受け取ることができます。  
引数は、関数名の直後の `()` の中に設定します。  
引数は、`,` で区切って設定することができます。

関数は、**返り値**と呼ばれる値を関数の外部に渡すことができます。  
返り値は、関数の最後に `return` と書いて、その直後に設定します。

## 前回の演習: 解答例

以下のセルに、引数で与えられた値を2倍して返す関数 `double` を書いてみましょう。受け取った値を出力しよう

In [11]:



```
def double(x):  
    r=x*2  
    return r  
  
k=double(int(input()))  
print(k)
```

```
3  
6
```

**課題3:**以下のセルに、引数で与えられた値を2乗して返す関数 `square` を書いてみましょう。受け取った値を出力してください。

In [13]:



```
def square(y):  
    z=y**2  
    return z  
  
e=square(int(input()))  
print(e)
```

3  
9

In [ ]:

